

【対象：第3学年】 【実施日：R 4.4.19】

〈国語科について〉

1 本校生徒のよいところ

「行書の特徴を理解したり、漢字の行書と調和した仮名の書き方を理解したりする問題」は、無回答率が0%で、正答率も全国平均程度もしくはそれより上回っていた。本校では各学期末に、書写の学習時間を設定し、行書について詳しく学習する機会を設けており、普段の学習においても機会を捉えて行書の話をしていることがその原因であると考えられる。

2 改善すべきところ

「自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く問題」については、無回答率29.7%で、正答率も全国平均より9.8%低かった。その原因としては、書く機会の不足が考えられる。現在はテストごとに作文課題を出題しているが、普段の授業でも書く機会を多くもつことが必要だと思われる。「表現の技法について理解する問題」については、全国平均より17.4%も低かった。この原因は、表現の技法について学ぶのが第1学年のときであり、その後の反復学習が不足しているためと思われる。

3 今後の改善策

「自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く」力を身に付けるさせるために、専用のワークシートを用意し、書く活動の終わりには必ず生徒自身に振り返りをさせる。作文を自分自身で見直したり、友達同士で互いに意見を交換させたりする。

〈数学科について〉

1 本校生徒のよいところ

「素数」と「素数でない数」の区別ができており、自然数を素数の積で表すことができる。授業で学習した「代入法」を効果的に用いて、簡単な「連立二元一次方程式」の解き方を理解できている。

2 改善すべきところ

「一次関数」については、変化の割合の意味が十分理解できていない。「図形」については、その性格を見だし、数学的に表現する力が十分ではない。全体的には、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する」力が弱いために、設問の意味を十分に読み取れていないという傾向が見られる。

3 今後の改善策

生徒同士で教え合う時間を意図的に設定し、周りの生徒に説明をする機会を設けることで、表現力を身に付けさせる。また、1つの学習内容について、教科書の問いだけでなく、様々な種類の問題を解かせて理解を深めさせる。

〈理科について〉

1 本校生徒のよいところ

「大気圧」の概念を空気の柱を用いて説明することができた。「力のつりあい」については、2力がつりあう条件を理解し、重力につりあう力を説明することができた。「岩石」に関する問題では、堆積岩の成り立ちを正しく理解し、化石は堆積岩の中で観察されるということが理解できている。

2 改善すべきところ

「大地の成り立ち」については、大地の変動を垂直方向の移動だけで捉え、水平方向の移動も踏まえて推論することができていなかった。また、1つの実験だけで行った考察について、課題を解決しているかどうか考え、正しい考察を導き出すために必要な実験を計画することができなかった。

3 今後の改善策

授業や朝の自習時間および家庭学習で、基礎的・基本的な学習プリントをくり返し実施し、知識の定着と学力のさらなる向上を図る。

〈生徒質問紙について〉

1 肯定的な意見が全国平均を上回っていた項目

「朝食を毎日食べている」・「毎日同じくらいの時刻に寝ている」・「将来の夢や目標を持っている」・「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」・「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」・「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったことがある」など

2 肯定的な意見が全国平均を下回っていた項目

「スマホやパソコンの使い方について家の人と約束したことを守っている」・「自分にはよいところがある」・「人が困っているときには進んで助ける」・「家庭で自分で計画をたてて勉強している」・「読書が好き」・「地域の行事に参加している」・「クラスの仲間との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」・「国語の勉強が好き」・「数学の勉強が好き」・「理科の勉強が好き」など

☆具体的な方策

- ペア学習、グループ学習を取り入れ、話し合う場面を場面を増やしたり、意見を発表する機会を増やす。
- タブレットやICT機器を効果的に活用し、表現方法を工夫する。(可視化に努め、わかりやすさを追求する)
- 読書活動を励行する。(読書週間の継続、図書室の利用改善)
- タブレットの持ち帰り等をはじめ、生徒が主体的に家庭学習に取り組む方策を試行する。